図南小

主体的に学び合う子の育成

～問題解決的な学習を通して～　　（３年計画の１年次）

校長　大坂　隆

１　研究主題について

本校では教育目標に「明るく　やさしく　たくましい子」を、努力目標の一つに「自ら考え、学び合う子」を掲げ、日々の教育活動に取り組んでいる。この目標を具現化するために、児童一人一人が学ぶ意欲をもち、問題に真摯に向き合い、自分の考えを友達と積極的に伝え合う中で、自分の考えを広げたり深めたりしていくことが必要になると考えた。

昨年度までの３年間、「共に学び合い、問題を解決していく子の育成」と主題を掲げ、算数科（２年間）、社会科（1 年間）を研究してきた。算数科では前時の問題との違いを話し合わせる、ペープサートや絵を用いて視覚に訴える、図形の一部分を隠して提示するなど問題提示の工夫をすることで問題場面の状況を共有することができた。また、問題提示をした後の児童の気付きや疑問について交流する場を設定することで、解決への見通しをもたせることができた。社会科では、２年間の算数科での研究の成果を生かし、授業の導入部分で児童が課題を見出していくような資料の吟味や比較検討できるような提示の仕方を工夫した。児童の思考にゆさぶりをかけることで課題解決の意識を高め、課題に意欲的に取り組む姿が見られるようになった。しかし、児童が主体的に問いを見つけ出したり、授業の終末まで学ぶ意欲を持続させたりするにはどうしたらよいかという課題も残った。さらに、課題解決のためには効果的な話し合いが必要だと考えるが、話し合いの素地となる「聞く・話す」ことについての課題も挙げられた。

そこで今年度は、昨年度までの研究を踏まえ、研究主題を「主体的に学び合う子の育成」として、主体的に問題解決に向かうことができるよう問題解決的な学習に向けて授業改善を図ることとした。必要感のある学習課題を設定するために、児童の実態を把握し、授業の導入場面において教師のはたらきかけを工夫することにより、児童一人一人が自分の考えをもって授業に臨むようにさせたい。さらに、児童の主体的な学びが持続するように、自分の学びを実感したり、友達と共有したりする振り返りの工夫をすることで研究主題に迫ることができると考える。

２　研究のねらい

主体的に学び合う児童を育成するための効果的な指導のあり方について、問題解決的な学習を取り入れた国語科・算数科の授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

問題解決への必要感のある学習課題の設定や学びを実感できる振り返りの工夫をすることにより、主体的に学び合う児童を育成することができる。

４　研究内容

(1) 必要感のある学習課題の設定の工夫

(2) 学びを実感できる振り返りの工夫

(3) 日常における「聞く」「話す」活動の工夫

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師等	授業の概要
６	２４	第１回授業研究（要請訪問） 第４学年　国語科「ごんぎつね」 授業者　教諭　加藤　晃介 指導助言 教育指導課　福田　秀貴　主任指導主事	前時に書かせた「ごん」宛ての２種類の手紙を授業の導入で提示した。それぞれが考える「ごん」の性格の捉え方に違いがあることに気付かせ、課題解決への必要感をもたせた。振り返りでは、再度「ごん」への手紙を書かせることで、読み取りの変容や自己の学びについて実感させた。
９	１４	第２回授業研究 第６学年　算数科「円の面積」 授業者　教諭　石橋　柊子 指導助言 江陽小学校　校長　三津谷　喜美典氏	複合図形をアニメーションで提示し、既習の図形に気付かせたり、公式を想起させたりして課題解決の意欲を引き出した。単元を通して、「教師主導」「相互理解」「自己内」の様々な手法の振り返りを計画的に実施した。個人での振り返りは、書く観点を与えて書かせたことが有効だった。
１１	３０	第３回授業研究（要請訪問） 第１学年　国語科「じどう車くらべ」 授業者　教諭　山田　章子 指導助言 教育指導課　福田　秀貴　主任指導主事	順序を入れ替えた文章を提示したり前時までの説明の順序を振り返ったりしながら、「しごと」と関連付けた「つくり」の説明の順序を考えさせた。２種類の顔マークで学習の振り返りをすることにより、自分の学びを実感させるようにした。

(2) 一般研修

月	日	内容・講師等
４	４	エピペン講習会　　講師　　養護教諭　久保　沙也香
６	１７	問題解決的な授業づくり（国語） 講師　　教育指導課　福田　秀貴　主任指導主事
６	２２	連携について考えよう　　～校内支援体制と保護者連携～ 講師　　こども支援センター　　上澤　司　特別支援教育アドバイザー
８	１９	１人１台端末の活用 講師　　総合教育センター　石井　一二三　主任指導主事
８	１９	若手研修会(算数) 講師　　総合教育センター　松橋　祐哉　副所長兼主任指導主事
８	３１	県学習状況調査の分析・考察

６　研究の成果

(1) 問題提示の仕方や教材にしかけを作る等、導入の工夫をすることで、児童に問いの意識を芽生えさせることができた。また、児童に自分の立場を表明させることは、課題解決への意欲的な取り組みにつながった。

(2) 学習で分かったこと、よいと思った友達の考え等を様々な方法（文章、絵文字など）で振り返らせることで、次につながる振り返りができた。

(3) 話し手に体を向けて聞く、反応をしながら聞くというようなことを全校で取り組むことにより、教師、児童の「話をよく聞く」ということへの意識が高まった。

７　研究の課題

(1) 授業の導入時だけでなく、45 分を通して児童の意欲を持続、増幅させるような授業の展開はどうあればよいか。また、学びを実感させる振り返りや相手を意識して話すことについての手立ての工夫を今後も研究していく必要がある。

（記入者　　松橋　麻紀）